

日本医療研究開発機構について理解を深めたシンポジウム
＝岐阜市大学西、岐阜薬科大



医療研究

岐阜の大学連携に期待

岐阜市 AMED 理事長らシンポ

医療分野での研究成果の効率的な実用化を図っていくため、政府が昨年春に設置した「日本医療研究開発機構（AMED）」の末松誠理事長（58）を招いたシンポジウムが6日、岐阜市大学西の岐阜薬科大で開かれた。医薬品の研究開発などで連携する岐阜大と岐阜薬科大が主催。AMEDは文部科学、厚生労働、経済産業の各省に分かれていた関連予算の集約と分配を担い、基礎研究から実用

化までを一貫してマネジメントする。両大がどのように関わられるかを探るためシンポを開き、両大の教授や学生ら約150人が聴講した。

末松理事長は講演でAMEDが着手している取り組みや理想などを詳しく述べた。パネル討論では末松理事と話をした。（古家政徳）

長、森脇久隆岐阜大学副学長らが議論を深めた。末松理事長は両大が立地的にも隣接している点を指摘し、「医学・薬学・獣医学で高密度に集まっている岐阜の特色を前面に出し、AMEDの取り組みに加わってほしい」と話した。（古家政徳）